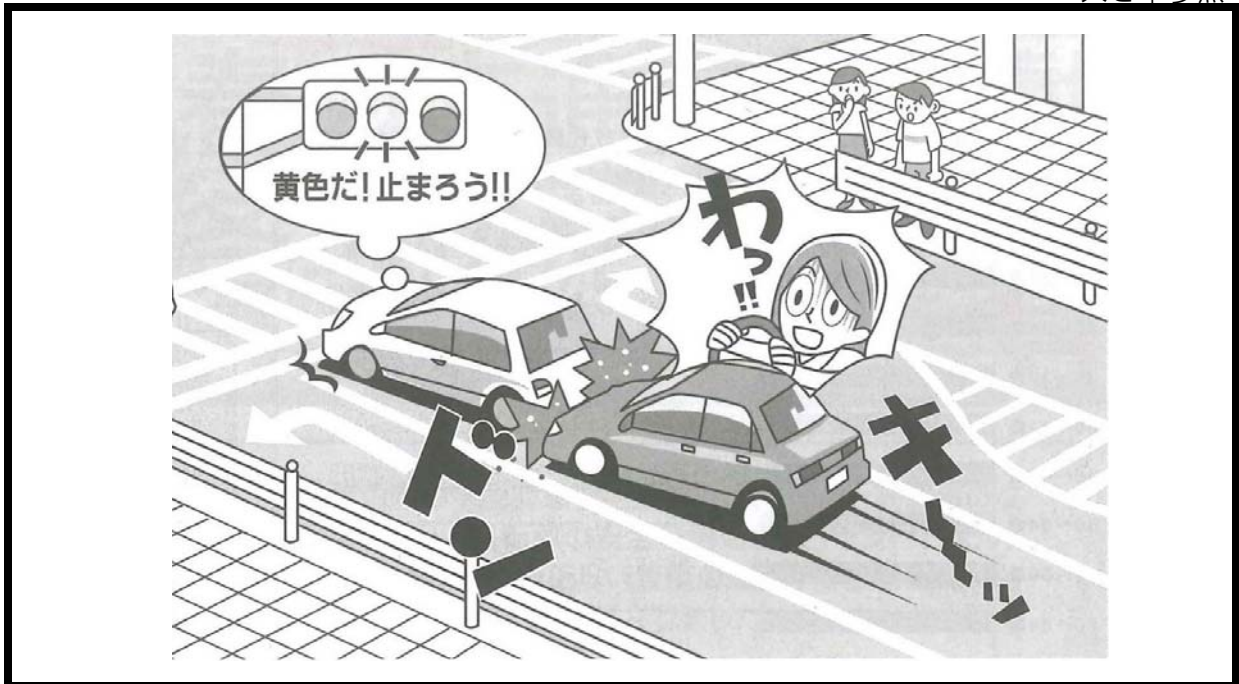


■事故の概況

人と車参照



事故類型：追突

発生日時：通勤時間

当事者A：普通乗用車 20歳代 女性

当事者B：普通乗用車 50歳代 男性

■ 事故の概要

Aは毎日通っている道を、前走するB車に追従して時速約60kmで走行していました。

この先にある交差点の手前は、直進車線、右折車線、左折車線に分かれており、交差点まで約40m手前で交差点の信号は既に黄色でしたが、赤に変わった瞬間であれば前走するB車も停車せずに交差点を通過すると考え、そのまま交差点に進入しようとしたとき、B車が急ブレーキ気味に停止したので、Aも急ブレーキをかけましたが間に合わず、B車に追突しました。

B車はA車に押し出され、停止していた地点から交差点を通り越し、約50m先で停止しました。A車も衝突地点から約20m先で停止しました。

■ 事故から学ぶ

Aは、普段から黄色信号で止まっていませんでした。他の車両も止まらないのだから、黄色信号で止まるなんてかえって危ない、と思っていたようです。

黄色信号の意味は「注意して進め」ではありません。道路交通法施行例では「車両及び路面電車は、停止位置を越えて進行してはならないこと。ただし、黄色の灯火の信号が表示されたときにおいて当該停止位置に接近しているため安全に停止できない場合をのぞく」とあります。「黄色信号は停止位置を越えて進行してはならない」つまり「止まれ」ということです。

自分流の思い込みを排して、予測・予防運動ができていれば、Bが黄色信号で停車すると追突してしまう、という予想ができたはずです。